令和５年度　全国学力・学習状況調査の結果

□１　調査の目的

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものであり、次のことを目的としている。

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

□２　調査の対象学年

国・公・私立学校の小学校第６学年、中学校第３学年　（原則として全児童生徒）

□３　調査の内容

（１）教科に関する調査　【小学校：国語、算数　　中学校：国語、数学、英語】

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。なお、英語は４年ぶり２度目の実施であり、「話すこと」調査については、１人１台端末等を用いたオンライン方式により実施する。

①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能　等

②　知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力　等

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

○学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

□４　調査期日

令和５年　４月１８日（火）

＊中学校英語「話すこと」に関する調査は、４月１９日（水）～５月１９日（金）
（ただし、本調査結果には含まれていない。）

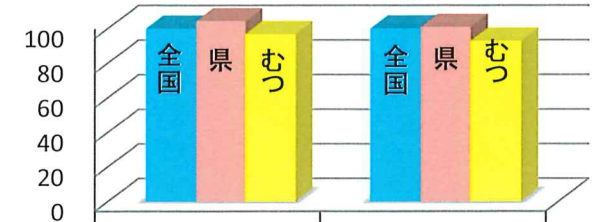
□５　調査を実施した児童生徒数

	児 童 数	生 徒 数
全　国（公立）	９６４，３５０人(98.7%)	８９３，５２８人(96.7%)
全　国（国立）	６，１９１人(0.6%)	９，２６２人(1.0%)
全　国（私立）	６，８０４人(0.7%)	２１，１９１人(2.3%)
青森県（公立）	８，５２１人	８，５２５人
むつ市	３７３人	４００人

□６　学力調査の結果

１）全国の平均正答率を「１００」とした到達率及び全国・青森県・むつ市の平均正答率
※報道等による順位競争の過熱化を防ぐため、平成２９年度から、都道府県・市町村の平均正答率の数値は整数値での発表となっている。
※教科間及び学年間の定着度の差異を把握するため、ここでは上記指標を用いている。

■①令和５年度　小学校６年生



	国語	算数
全国	100	100
県	104.2	100.8
むつ	96.7	92.8

国語、算数
全国平均、県平均を下回る。特に、算数に落ち込みが見られる。

☆令和４年度平均正答率

	国語	算数
全国	65.6	63.2
青森県	68	63
むつ市	64	60

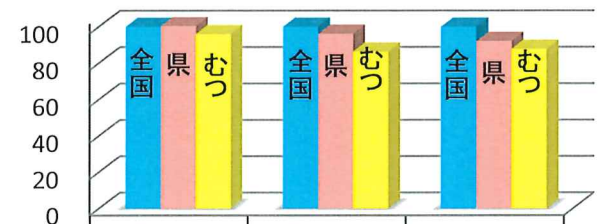
＊令和５年度平均正答率

	国語	算数
全国	６７．２	６２．５
県	７０	６３
むつ	６５	５８

◇令和４年度青森県学習状況調査結果

	国語	算数
青森県	73	59
むつ市	70	53

■②令和５年度　中学校３年生



	国語	数学	英語
全国	100	100	100
県	100.3	96.1	92.1
むつ	96.0	86.3	87.7

国語、数学、英語
全国平均・県平均を下回る。特に、数学、英語に落ち込みが見られる。

☆令和４年度平均正答率

	国語	数学
全　国	69.0	51.4
青森県	69	52
むつ市	69	48

＊令和５年度平均正答率

	国語	数学	英語
全国	６９．８	５１．０	４５．６
県	７０	４９	４２
むつ	６７	４４	４０

◇令和４年度青森県学習状況調査結果

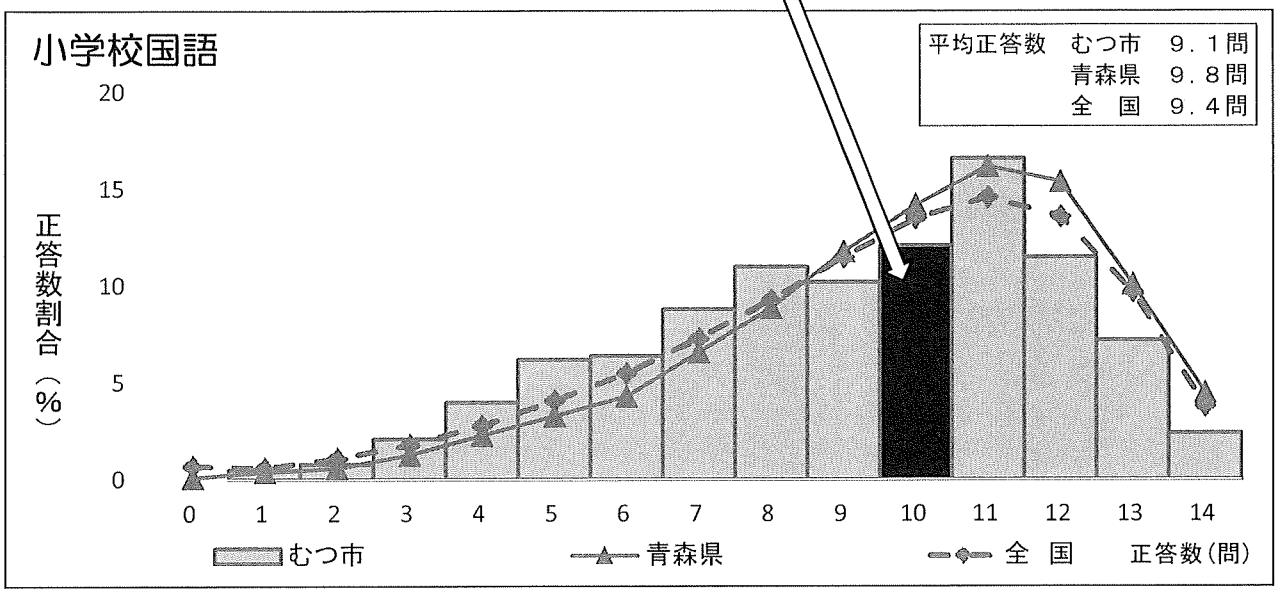
	国語	数学	英語
青森県	62	43	58
むつ市	62	39	56

☆→前年度の小学校６年生及び中学校３年生との異集団比較
◇→前年度の青森県学習状況調査との同一集団比較

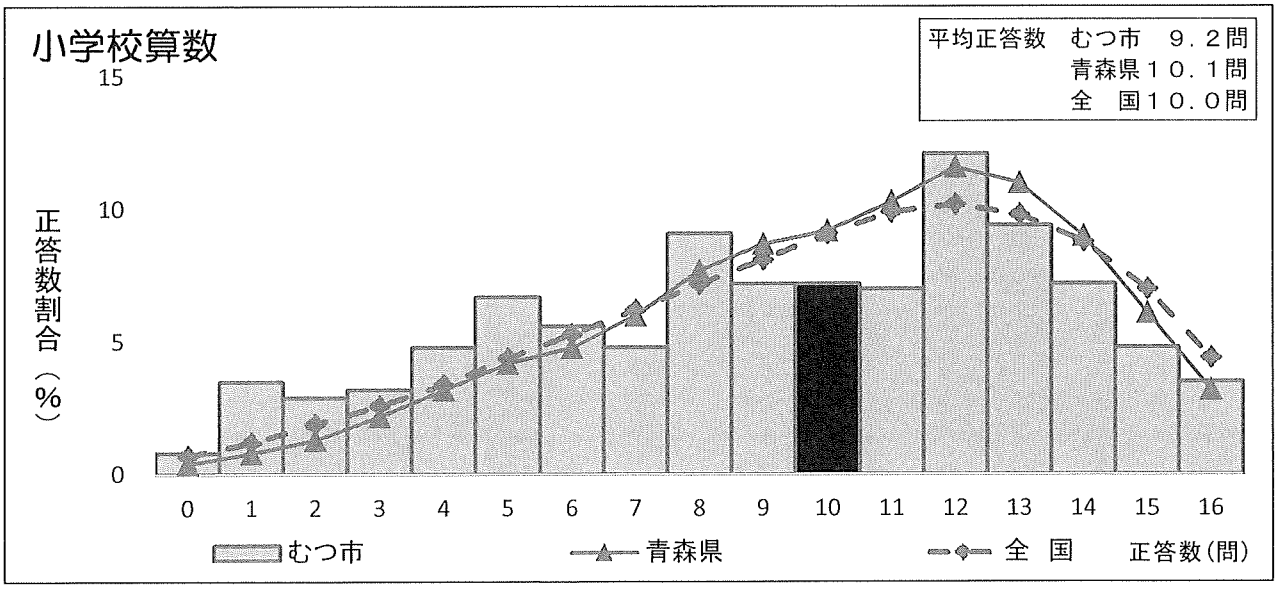
２）各教科の正答数分布グラフ（むつ市→柱状グラフ、青森県・全国→折れ線グラフ）
※横軸は正答数、縦軸は児童生徒の割合を表している。

二極化には至っていないものの、下位が厚く上位が薄い状況は、小中・各教科とも共通している。全国学力・学習状況調査の実施学年・教科に限らず、自校児童生徒の定着状況を把握し、授業のポイントの見直しや補充・発展指導の工夫に取り組むことが望まれる。

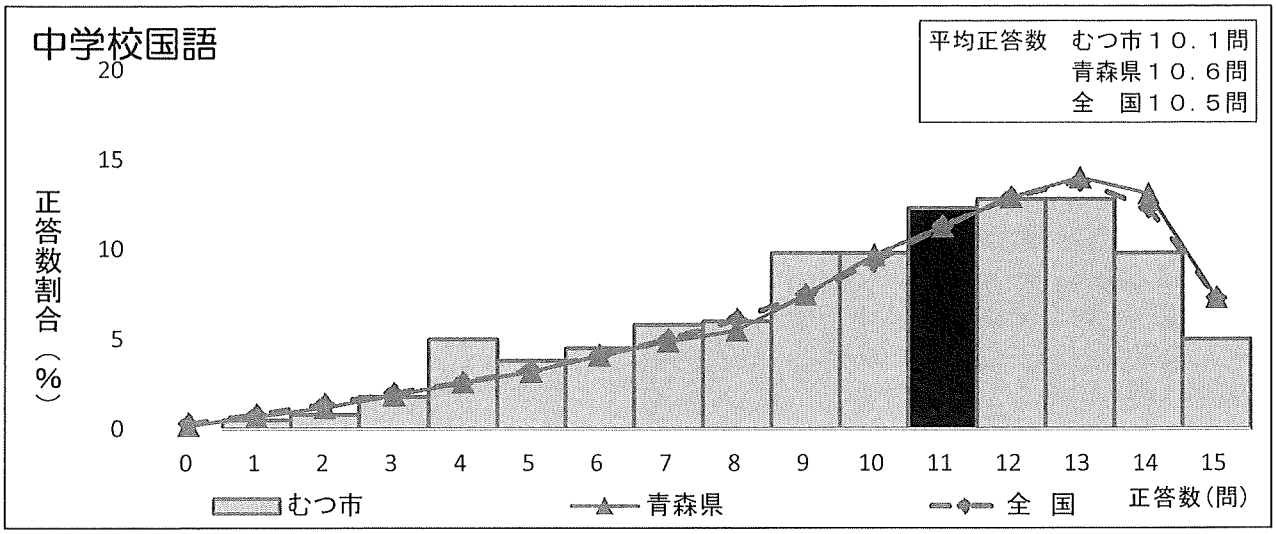
※棒グラフの濃い部分は、県及び全国の平均に到達するために必要な正答数を表している。



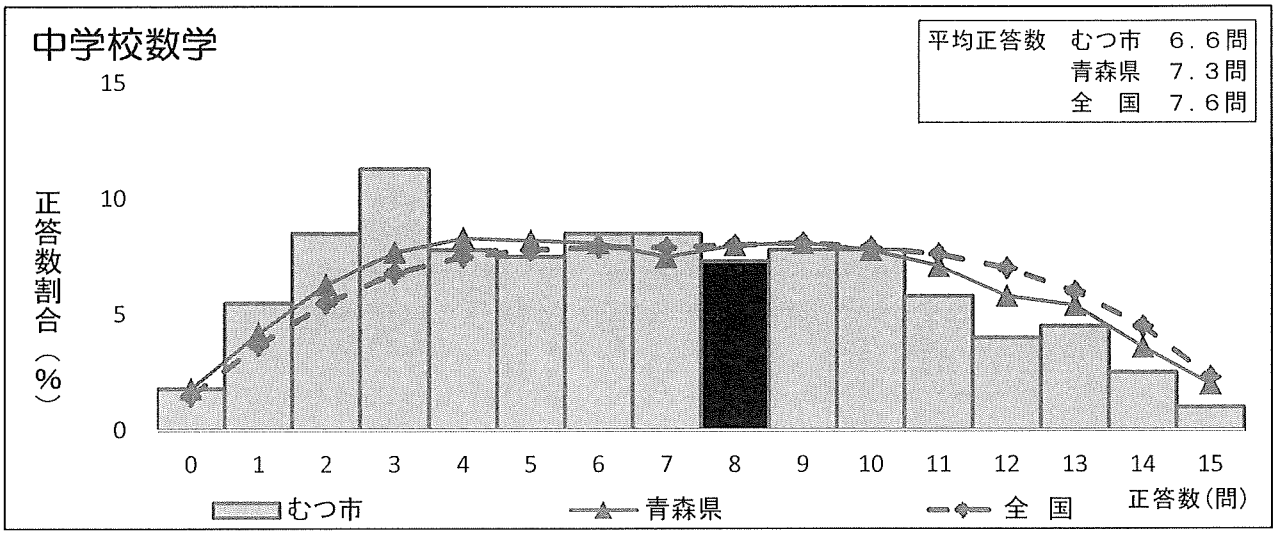
＊全国、青森県と類似の形状となっている。下位層の底上げに向けて、個別指導やデジタル教材等を活用した学習など、確かな理解と定着を図る授業づくりが必要である。



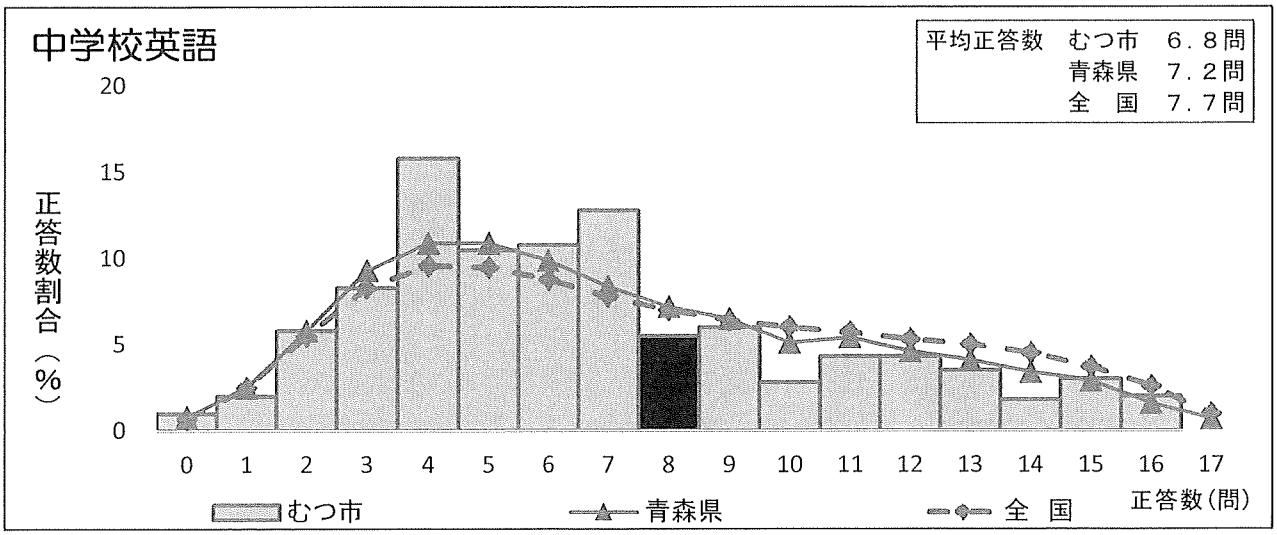
＊全国、青森県と比べて下位層の割合が高く、中～上位層の割合が低くなっている。下位層の底上げが求められるため、習熟度別学習を含め、児童生徒の定着度を確かめながら個別・最適化を目指した授業を展開することが必要となる。補充についても、個に応じた指導等の工夫が望まれる。



＊全国、青森県と類似の形状となっている。上位層の割合を更に高めるために、個別指導が必要な児童生徒に配慮しつつ、高いねらいをもとにした授業を展開する必要がある。



＊全国、青森県と比べて下位層の割合が極めて高くなっている。下位層の底上げが求められるため、習熟度別学習や個別指導、デジタル教材等を活用した学習を通して確かな定着を図る必要がある。



＊全国、青森県と比べて下～中位層の割合が高くなっている。特に、下位層の底上げに向けて、知識・技能における基礎・基本の定着を図る集団指導の工夫や、個別の支援内容の吟味など、授業づくりの見直しが必要である。

3）各教科結果の考察

小学校６年国語

身に付いている力

① 目的に応じて、文章と図表等を結びつけるなどして必要な情報を見つける力が身に付いています。
② 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使う力が身に付いています。

イくらべてみました。

育てたい力と手立て

① **必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力**
→インタビューなどをする際に、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどんな情報を相手から引き出したいのかなど、目的を明確にして質問したり、話の内容を捉えたりする学習を大切にしていきます。

② **情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う力**
→複数の情報を整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、そのよさを実感できるようにするとともに、児童が自分の目的に合った情報の整理の仕方を選ぶことができるようにする学習を大切にしていきます。

③ **日常生活でよく使われる敬語を理解し使う力**
→他教科等の学習や学校行事、来客があるときなどと関連させ、日常生活の実際の場面を通して、相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などの敬語について理解する学習を大切にしていきます。

おっしゃった　申した　うかがって　お聞きになって

小学校６年算数

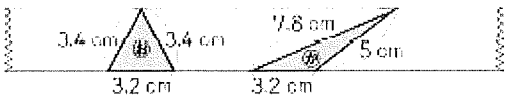
いすの数（きゃく）	1	2	3	4	5
高さ　(cm)	45	51	57	63	A

身に付いている力

① 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めたり、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いたりする力が身に付いています。
② 一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をする力が身に付いています。 50 × 40
③ 正方形の意味や性質について理解しています。

育てたい力と手立て

① **三角形の意味や性質を理解したり、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を説明したりする力**
→ 図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について考察し、示された図形の角の大きさを求めたり、基本図形の面積の公式の理解を深め、活用したりする学習を大切にしていきます。



② **百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求める力**
→ 示された割合から、基準量を具体的に決めて、それに対する比較量を捉える学習を大切にしていきます。

中学校３年国語

〈インタビューの目的〉
星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にする。
〈インタビューを通して知りたいこと〉
・「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうしてか。
・「安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。
・社会で働く上で何が大切だと思うか。

身に付いている力

① 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる力が身に付いています。
② 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる力が身に付いています。
③ 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができる力が身に付いています。

育てたい力と手立て

① 意見と根拠など情報と情報との関係について理解する力
→ 事実と感想、意見などとの関係の読み取り方や、原因と結果などの関係の読み取り方、考えとそれを支える理由や事例の読み取り方などを、叙述を基に読み取る学習を大切にしていきます。

② 具体と抽象など情報と情報との関係について理解する力
→ 文章に書かれている情報を図や表に整理したり、文章を論理的に読んだりする学習を大切にしていきます。

③ 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする力
→ 自分の考えを広げるために、様々な文章を読んだり、他者の意見を聞いたりして、自分が考えていたこととは違う考え方を知り、自分の意見を再構築する学習を大切にしていきます。また、自分の考えを深めるために、様々な文章を読んだり、他者の意見を聞いたりして、自分の考えとの共通点に気付き、自分の考えを見直す学習を大切にしていきます。さらに、自分の考えを形成する指導においては、筆者の見方、考え方を読み取り、それを自分の考えの形成に役立てるという学習も大切にしていきます。

④ 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整える力
→ 意見文などを読み、よい点や改善点について気付いたことを文章のどの部分のことなのか分かるようにまとめたり、書き手の意図や読み手に与える効果についても考えたりする学習を大切にしていきます。また、推敲する際には「❶表記や語句の用法について」文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分け、語句の選び方や使い方が適切かなど、「❷叙述の仕方について」文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順が適切かなど、「❸表現の効果について」説明や具体例、描写などの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか等を観点とした学習を大切にしていきます。

⑤ 身に付けたい力の明確化と単元を構想する
→ その授業で児童生徒に身に付けさせたい力は何かを明確にします。可視化しやすい言語活動の出来不出来だけに目が行かないように、生徒にとって学ぶ必要のある場面や学習課題の設定、試行錯誤できる学習展開の保障、日常生活における様々な場面で、主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」の習得といったことが効果的に結び付く単元を構成します。

ア 【A】か【B】、またはその両方の文章から、自分が着目したところを抜き出しなさい。
イ アを踏まえ、説明に関する経験や知識に触れながら、これからどのように本を読んでいきたいかを具体的に書きなさい。

中学校３年数学

身に付いている力

$$12\left(\frac{x}{4}+\frac{y}{6}\right)$$

① 文字を使って数や図形の性質を説明したり、方程式を解いたりする場面において必要となる、数と整式の乗法の計算をする力が身に付いています。
② 数に関する事象を数学的に考察する場面において、具体的な数を代入して、計算結果を求める力が身に付いています。

育てたい力と手立て

① 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力
→ 予想した事柄が成り立つことを説明するために、どのような形に変形すればよいという見通しをもって、式を変形できるようになることが大切である。そのために、一般的に成り立つ理由を、構想を

はじめの数として入れる整数をnとすると、はじめの数に２をかけた数は$n\times2$、６をたした数は$n+6$と表される。
計算結果は、

$n\times2+(n+6)$
$=$

立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにする学習を大切にしていきます。

② 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明する力

→ 予想した事柄が成り立つかどうかを、具体的な数や文字式を用いて調べ、見いだした事柄を数学的に表現できるようになることが大切である。そのために、事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する学習を大切にしていきます。

③ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する力

→ 事柄が成り立つことを証明することができるようにするために、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるような学習を大切にしていきます。

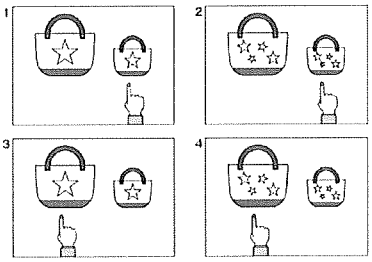
質問項目「数学の勉強は大切だと思いますか」に対するポジティブ評価は８５．０％となっており、多くの生徒が数学の勉強は大切だと捉えています。学習内容の確かな定着に加え、実生活と関連を図るなど、数学を学習する必要性につなげていきたいと思います。

中学校３年英語

身に付いている力

① 「聞くこと」において、必要な情報を聞き取ったり、短い説明の要点を捉えたりする力が高まっています。
② 「読むこと」において、短い文章の中で書き手が最も伝えたいことを読み取る力が高まっています。
③ 「書くこと」において、まとまりのある文章をあきらめずに書こうとする意欲が高まっています。

育てたい力と手立て



① 情報を正確に聞き取る力

→ ＪＴＥ（日本人英語教師）、ＡＬＴ（外国語指導助手）などの生の音声や学習者用デジタル教科書などを活用しながら、自然な速さで話される英語を聞く活動を繰り返し行い、情報を正確に聞き取ることができるようにする学習を大切にしていきます。

その際、語と語の連結による音変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れたり、意味のまとまりを意識しながら区切って聞いたりする活動を継続して行っていくことが大切です。

② 前後の文章から話の流れを推測し、正しい表現を用いる力

→ 説明文を読んで、段落内の文と文との関係を読み取り、あいだに入る表現や続きを考える活動を大切にしていきます。内容を把握し、正確に表現するためには、語と語の関連や代名詞、接続表現などを身に付けていくことが大切です。

③ 言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を正しく使い分ける力

→ 意味のある文脈の中で、言語の働きを理解し、表現を使い分ける活動を大切にしていきます。コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を工夫し、身に付けさせたい表現に意図的に繰り返し触れさせることが大切です。

④ 社会的および日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を正確に書く力

→ 目的に応じて文章構成を判断しながら、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばより相手に伝わるかを考えて書くことを意識した活動を大切にしていきます。伝えたいことを正しく伝えるために、語句や文法の大切さに気付かせ、身に付けようとする意欲を高める指導を大切にしていきます。

> あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを公開しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を 25 語以上の英語で書きなさい。

□７　質問紙調査の結果（本市の実態）

【全体考察】

下記の項目において「○」とされて紹介されているものは、全国や県と比較してポジティブな評価が上回っている当市の児童生徒の強みであり、「◆」は全国や県と比較してポジティブ評価が低い傾向であり、支援等の対策が必要と思われている弱みの項目である。

＜挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等＞

○先生が、自分のよいところを認めてくれていると思う児童生徒が多く、全国平均よりも高い。また、先生が、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思う児童生徒も多い。先生方が児童生徒としっかり関わることで自己肯定感の高まりにつながっている。

○将来の夢や目標をもっているという回答は、小・中学校ともに県平均、全国平均より高くなっている。

○多くの児童生徒は、人が困っているときに進んで助ける、いじめはどんな理由があってもいけないことだ、人の役に立つ人になりたいと考えている。

◆困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した児童生徒は約７０％で、県平均、全国平均よりも低くなっている。今後、学習面だけでなく様々な悩みをいつでも相談できる環境づくりと、児童生徒にＳＯＳの出し方を身に付けさせることが必要になってくる。

＜学習習慣、学習環境等＞

○多くの児童生徒は、毎朝同じくらいの時刻に起き、朝食を食べるなど、規則正しいリズムで生活している。

○学習時間について、平日及び休日に１時間以上学習しているという回答が県平均、全国平均を上回っている。また、全く学習しないという回答は県平均、全国平均を下回っており、小・中学校ともに家庭と連携した学習習慣の形成がされている。

◆読書が好き、平日の読書時間、新聞を週に１回以上読んでいるについて、中学校３年生は県平均、全国平均を上回っているが、小学校６年生は県平均、全国平均を下回っている。本や新聞を読む活動は、国語だけでなく社会など他の教科の読解力にも関連するため、引き続き家庭と連携しながら指導していく必要がある。

◆家で自分で計画を立てて勉強しているという回答は、小学校６年生は約７５％、中学校３年生は県平均、全国平均を上回っているものの約５８％となっている。宿題以外の学習の仕方や内容について支援していく必要がある。

＜ＩＣＴを活用した学習状況＞

○多くの児童生徒が、学習の中でパソコンやタブレットなどのＩＣＴ機器を使うことは勉強の役に立つと思っており、実際の使用についても、週１回以上使用していると回答した割合は、小学校６年生、中学校３年生ともに県平均、全国平均と比べて高くなっている。今後も積極的な活用に向けた支援を継続していく必要がある。

◆学校の授業時間以外に、パソコンやタブレットなどのＩＣＴ機器を勉強のために使っていると回答した割合は、小・中学校ともに県平均、全国平均と比べて低くなっている。日常的な使用に向け、デジタル教材などの活用を促していく必要がある。

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況＞

○多くの児童生徒が、学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると捉えている。日頃から「話合い活動」を取り入れるなど、工夫した授業づくりを行っている成果と考えられる。

◆各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っている及び課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたという回答は、それぞれ小・中学校とも

約７０％であるが、県平均、全国平均よりも低くなっている。総合的な学習の時間と関連させ普段の授業において既習事項をどのように活用させるかや、各教科などで学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動を取り入れていく必要がある。

＜総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳＞

○学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童生徒はともに８０％を超えている。学級をよりよくしようという意識をもって学校生活を送っていると考えられる。

○道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童生徒はともに８０％を超えている。多くの学校で「考え議論する道徳」を意識した授業が展開されていることがうかがえる。

◆総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるという児童生徒は約７０％で、県平均、全国平均よりも低くなっている。ＰＤＣＡサイクルを取り入れた学習や課題を自分なりに予想・考察・発表するなどの学習形態の工夫が求められる。

＜学習に対する興味関心や授業の理解度等＞

○多くの児童生徒は、どの教科の授業も大切だと考えており、将来、社会に出たときに役に立つと回答している。

◆勉強が好きだと回答した児童生徒は、各教科とも７０％未満で、特に、算数・数学については、約５０％と低くなっている。題材を工夫したり、学習したことを普段の生活でどのように活用できるかを児童生徒に考えさせるなど、児童生徒の興味・関心を高めるようにする必要がある。

◆書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたと回答した児童生徒の割合は、県平均、全国平均と比べて高くなっている。普段から書く活動を取り入れることはもとより、最後までしっかり書かせることも求められる。

【総括】

上記の結果から、当市の児童生徒の意識は以下のように考えられる。

当市の児童生徒は、自己有用感は高めにもっており、将来に対しての夢や目標も比較的持ち合わせている。また、困っている人に対しても助ける気持ちやいじめに対しても理由の如何を問わず「やってはいけない」という気持ちがあり、さらに、人の役に立ちたいという心も強くもっている傾向がある。

しかし、自分が不安なときや困っているときに周囲の大人に相談できない気持ちをもつ児童生徒が少なからずおり、この点のサポートが課題となっている。

学習に関しては、家庭における学習時間の確保はなされているが、宿題以外の自学の計画や学習内容について戸惑っている傾向がうかがえる。学習支援機器として配備されているＩＣＴ機器（タブレット端末）についても授業以外の活用があまり進んでおらず、家庭学習での活用が喫緊の課題であろう。

授業に関しては「話し合う活動」は取り入れられているものの、学んだことを生かし、自分の考えをまとめる部分は弱いと認識している児童生徒が多い。このことから授業では、課題に対して自分の考えを持たせる展開を意識的に盛り込むことが課題であると思われる。

学習に対する興味・関心については、どの教科も大切であり将来に役立つとは思っているものの、教科そのものへの関心が薄く、また、記述を求められる問題に対してはあきらめる傾向の児童生徒も少なからず存在する。学習（教科）に対する興味・関心や臨む態度の育成を図っていかなければならないと思われる。

当市の児童生徒の傾向は、端的に言うと「心はいいものをもっているが、その心を生かす基本的な力とスキルに足りない部分がある」ということが言える。これらの課題の解決には心に寄り添う個別の支援と授業の構成及び授業改善が必要ではないだろうか。

□８　学力と相関関係があった質問項目

質問紙の回答と学力の相関関係を比較した際に、肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率が、そうでない回答をした児童生徒の平均正答率よりも全教科１０ポイント以上高かった内容である。

ただし、相関関係については、あくまでも「～が関係ありそうだ」という傾向を捉えるものであり、「正答率が高いのは～が要因だ」というように原因を特定するものではない。

■　小学校６年生・中学校３年生　共通

○　前年度までの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
○　前年度までの授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。
○　前年度までの授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。
○　学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
○　授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。

■　小学校６年生

○　自分には、よいところがあると思う。
○　学校に行くのは楽しいと思う。
○　自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
○　地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
○　５年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
○　学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。
○　総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
○　あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

■　中学校３年生

○　読書は好きだ。

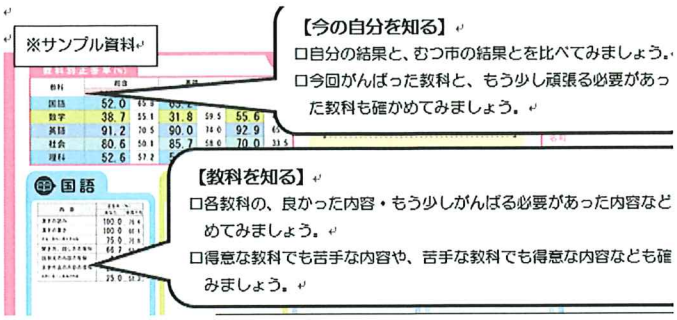
【総括】

上記項目の意識が向上するような教育が日常的に行われる教育課程を実践していくことが、児童生徒の学力の下支えになると思われる。教科に関わらず、学校づくりの指標として捉えていくことが必要である。

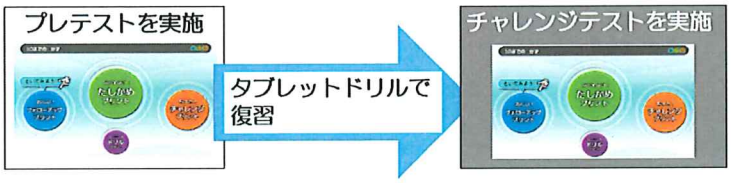
□９　むつ市教育委員会の学力向上の取組

○　児童生徒の意欲向上に向けて

むつ市総合学力調査結果の個票の見方を示した資料を作成して、学校を通じて説明・配付し、事後の学習に生かすことができるようにしています。



意欲の向上と、算数・数学で落ち込みの見られる内容の補充に向けて、「算数・数学チャレンジ」を各校で実施しています。



英語への興味関心を高めるために、英検の半額補助や、英検ＩＢＡの実施と英検ＥＳＧの推奨を行っています。（いずれも、受験案内や手続等に関わる補助を実施。）

英検IBA

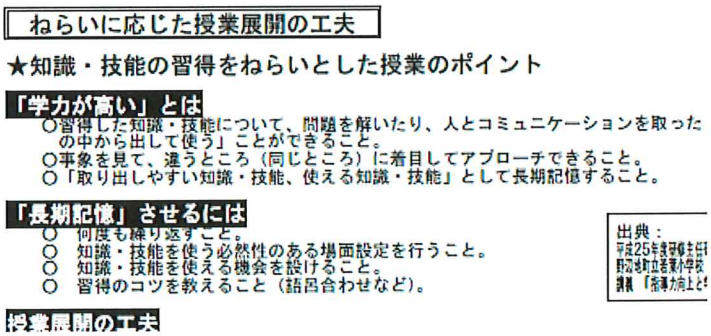
中学生全員を対象

英検ESG

希望する小学校の6年生を対象

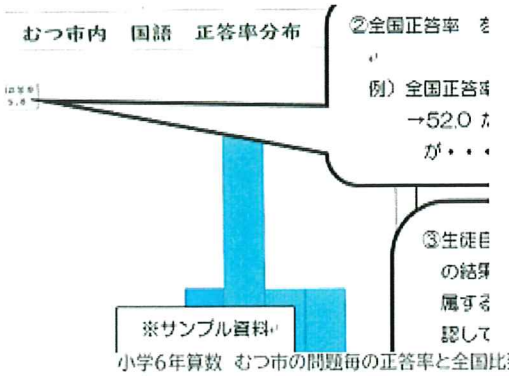
○　教員の指導力向上に向けて

授業改善に向けた資料を全教員に配付し、授業のねらいに応じて展開を工夫するなど、日々の授業の充実を図っています。



教員が、県外の最新情報を学ぶことによって、資質・能力を伸ばすことができるよう、研究大会への派遣助成を行っています。

むつ市総合学力調査や全国学力・学習状況調査等の結果をもとにした資料を小・中学校に提供し、事後指導の充実を図っています。



小学6年算数　むつ市の問題毎の正答率と全国比到達率

○ＩＣＴの活用として

児童生徒にタブレット端末（または２in１パソコン）を配付し、授業や家庭学習などの様々な場面で有効活用しています。

文部科学省「学びの保証・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」を活用しデジタル教科書を導入しています。

外国語・英語

市内全小学5年生～中学3年生

算数・数学

希望する学校

児童生徒のタブレット端末（または２in１パソコン）に、タブレットドリルを配備し、学習内容の定着を支えています。また、学習や活動の一層の充実を図るために、随時、アプリを追加しています。

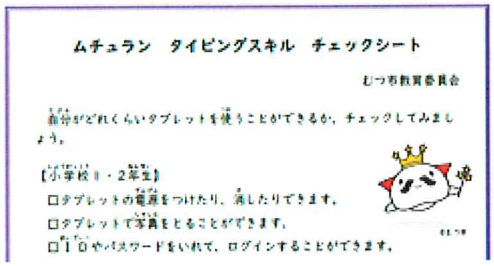
Canva for Eduvcation　動画編集

Adobe Express for Education　デザイン

ロイロノート　授業支援クラウド

子供達の活動の可能性をひろげるために

児童生徒のタイピングスキル向上に向けて、「ムチュランタイピングスキルチェックシート」を配付し楽しみながら端末に親しむことができるようにしています（タイピングソフトも紹介しています）。



ムチュラン　タイピングスキル　チェックシート

むつ市教育委員会

自分がどれくらいタブレットを使うことができるか、チェックしてみましょう。

【小学校１・２年生】

□タブレットの電源をつけたり、消したりできます。

□タブレットで写真をとることができます。

□１０やパスワードをいれて、ログインすることができます。

○　人員配置等による支援として

小中一貫非常勤講師を配置し、複式指導の解消や乗り入れ授業など、実態に即した指導を行っています。（市内９つの中学校ブロックに１名ずつ配置。但し、今年度は１名不足。）

スクールサポーター（学級担任等の指導をサポート）や、スクールサポートスタッフ（印刷や物品の準備をサポート）を配置し、児童生徒の活動を支援しています。

スクールサポーター

市内小学校８校、
中学校４校に計３３名

スクールサポートスタッフ

１年生が複数学級ある
市内小学校５校に５名

外国語指導助手（ＡＬＴ）を配置し、外国語活動や外国語、英語の授業をサポートしています。

ALT

５名で分担して、
市内全小・中学校
を訪問

○　その他

各校に新聞を配備し、新聞を読む習慣の育成や、授業での調べ学習等に活用できるようにしています。また、新聞記者が来校して授業を行う「出前授業（希望制）」も実施しています。

ホームページ「むつ市教育委員会　学校教育課　情報ポータル」を開設し、市内小・中学校の紹介や、学習支援サイト、公募事業等を掲載しています。

一般･児童生徒向けサイト

教職員専用ページ

学習に役立つコンテンツ･リンク

指導に役立つコンテンツ･リンク

□１０　保護者の皆様方へ

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。ここ数年、結果が下がってきているという現状を受けて、保護者の皆様にとっても、この結果は心配事の一つであると思いますので、当教育委員会では、子どもたちの学力向上に向けた取組を一層進めていきたいと考えております。

本市では、今年度から新たな「むつ市学校教育プラン（令和５年度～令和９年度）」に取り組んでおり、推進目標として『郷土を愛し、高い志を持って　主体的に未来を切り拓く人づくり』を掲げております。また、『めざす学校像』の一つとして『学ぶ力を高める学校』に取り組んでいくこととしております。

デジタル技術の急速な進化など、子どもたちを取り巻く環境は変化が激しく、予測不能な状況となっています。その時代を生き抜く子どもたちの『学ぶ力』を高め、未来を切り拓く人材を輩出するために全力で取り組んでまいりますので、引き続き、ご協力、ご支援をお願いします。

特に、以下の点について、ご家庭でのご協力をお願いします。

- 「早寝・早起き・朝ご飯」を引き続きお願いします。
- タブレット端末の持ち帰りでは、家庭での約束事を決め、効果的な活用をお願いします。
- 頑張らせて褒めてやることで子どもは成長します。自己肯定感を高められるように、ご家庭での温かい声掛けや励ましをお願いします。